

「津久井やまゆり園」事件に寄せて

1年前の今日、私達に衝撃を与えた事件は起こりました。

亡くなられた方に心よりご冥福をお祈りすると共に、被害に会われた方の身体と心の傷が癒されます様にお祈り申し上げます。

この事件については、亡くなられた19人の方を匿名にしたことや犯人の精神科治療とその後の対応のことや入所支援施設の是非、建て替えの問題まで様々な視点で様々な立場の方々がコメントしています。匿名報道や施設の建て替え等については、意見を述べようとは思いませんでした。しかし、相談支援専門員として考え、行動しなければならないことはあると思って来ました。

それは、亡くなられた方や怪我をした方がそこでの暮らしを望んでいたのかどうか、という問題です。もしも、他の暮らし方を選びたかったのに選べなかったとしたら、それはその方に関わる支援者、私たちの様な相談支援専門員にも責任の一端があるという思いでした。

事件の後、「差別感情」とか「社会の責任」といった言葉が飛び交っていました。しかし、私達相談支援専門員はその様な抽象的な感情論ではなく、自分たちが生業としている仕事によって、できることを実行しなければならないと考えます。

この群馬県内で直接向き合っている方々、障害福祉サービスを利用しようとしている方々、その生活に支援を必要としている方々、その方の望む暮らしをしっかりと確かめようとしていくか、暮らしを変えたいと思っていないか、その人生でやりたいことをやっているのか、今一度、一緒に考えてみるのが、まずできることだと思います。

あまりにも衝撃的な事件ではありましたが、誰かを批判したり、何かの責任にすることではなく、目の前の方への真摯な支援ができていくこと、一人一人の相談支援専門員がそれを実行することを群馬県相談支援専門員協会として呼びかけたいと思います。

その一つとして、今回、群馬県相談支援専門員協会のHPで紹介したい情報があります。

『福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット』を作り発信し続けてくださっている大熊由紀子さんからの情報です。日々の追われるような忙しさは承知していますが、忙しく仕事をするその根源的なエネルギーにもつながる情報だと思います。「えにし」ネットにはその他にも私たちの仕事に関わる情報がたくさんあります。どうぞ知ってください。

福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット <http://www.yuki-enishi.com/>

より 以下引用

★施設体験をもつ見形信子さんによる追悼歌「19の軌跡」。歌詞と歌声は、「えにし」のHPの「障害福祉政策・激動の部屋」<http://www.yuki-enishi.com/gekidou/gekidou-00.html>の上から12番目「19の軌跡・僕らがなんにもできないなんて、なんできめるのさ?」「歩笑夢(ポエム)の透き通った歌声」をクリックしてくださいませ。 以上

平成29年7月26日

群馬県相談支援専門員協会 会長 坂柳幸子